JR広島病院だより

# ふたば

JR Hiroshima Hospital

2020 年 5 月 第 10 号 発行

春号

正面玄関の様子(感染症対策チームよる検温)

## 院長よりあいさつ

昨今のコロナウイルス感染については多くの病医院が対応に苦慮しておられることと存じます。当院についても外来、入院に制約が多くなり、院外の医療活動も増えて、少なからず職員に負担を強いていますが、頑張って乗り切りたいと思います。

さて当院は 4 月より地域医療支援病院を名乗ることとなりました。引き続きこの地域の医療を守っていく所存です。ただし選定療養費が高額になったことは、初診患者に混乱を来しかねず、紹介状を持参する患者が増えてくれればと思う次第です。

このような中で 4 月に入職した職員には、まさに火の中にいきなり飛び込んできたようなものです。どうか暖かい目で見て育ててやって頂きたいと思います。

医療法人 JR 広島病院
理事長　病院長　河本昌志

## 地域医療支援病院の承認について

当院は、令和２年３月３０日付、医療法が定める「地域医療支援病院」の名称使用が承認されました。当院では、医療機関相互の適切な役割分担のもと、これまで以上に地域医療機関及び関係機関と連携し、紹介患者さんや救急患者さんの受け入れについて、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

地域医療支援病院の具体的な役割として、主に以下のものが挙げられます。

1. 紹介患者さんへの医療の提供
2. かかりつけの先生方への積極的な患者さんの紹介
3. ＪＲ広島病院の病床や設備をかかりつけの先生方と共同で利用
4. 救急医療の提供
5. 地域の医療従事者に対する講演会、研修の実施

### 地域医療支援病院とは...

「地域医療支援病院」は、患者さんに身近な地域で医療を提供されることが望ましいという観点から、紹介患者さんに対する医療提供、医療機器等の共同利用を通じて、地域医療を担う「かかりつけ医」等を支援する力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有した病院に対し承認されるものです。

対象となる病院は、地域医療支援病院入院診療加算として、入院初日に 1,000 点の診療報酬が請求可能になります。（当院は、ＤＰＣ係数による請求になります。）

# 消化器内科

## ハイレベルで安心・安全な検査を

当院、消化器内科は、胃や大腸といった消化管から肝胆膵と広く消化管一般の診療を行っております。胃・大腸は、吉田先生、大原先生、胆・膵は峠先生、肝臓は山科先生、超音波検査は山科先生、大原先生、超音波内視鏡は吉田先生等々とそれぞれ専門領域を持っておりますが、いずれも臨床経験が２０年以上あるベテラン医師５名による診療であり、安心して受診していただくことができます。最近は、炎症性腸疾患、機能性消化管疾患（便秘症、過敏性腸症候群等）に特に重点を置いて診療しております。

当科の特徴の一つに内視鏡検査が挙げられます。消化器内科常勤医５名と健診センター医師２名の７名で行っております。昨年度の内視鏡検査数は、上部消化管検査は5350 件、下部内視鏡検査は2250 件とこの規模の病院では、突出した検査数を誇っています。いずれの検査も一昨年に比べ上部は 24%、下部は 18%の増加と検査数も年々増加をしております。内視鏡治療では、食道・胃・大腸の ESD 治療、ステント治療、異物除去等専門的治療も行っております。これらすべて、内視鏡専門医・指導医によって行われており、レベルの高い、安心・安全で確実な内視鏡検査を受けていただけます。これらの治療を支えるのが、内視鏡技師資格を有する５名の看護師を含め、８名の看護師達です。検査が安全に、安楽に行えるよう、また完璧な衛生管理で検査を行っており、日本医療機能評価機構でも高い評価を受けております。

副院長　三重野 寛　みえの ひろし

# 小児科

## 日常的な診察から、専門分野まで対応

当科は地域の第２次医療機関として常勤医２人体制で外来・入院診療を行っています。健診、予防接種、感染症などの急性疾患を中心に小児の様々な疾患に対応しています。また、一般外来以外に下記の専門外来を行っています。

- **心臓外来**
- **心雑音や不整脈の精査、心臓二次検診（中学生まで）などの心疾患の診断を行っています。**
- **膠原病外来**

広島県で唯一の小児のリウマチ専門医・指導医として、小児のリウマチ性疾患（若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、シェーグレン症候群など）のみならず、自己炎症性疾患、線維筋痛症にも対応しています。原因不明に関節を痛がる・腫れる、原因不明の発熱や発疹が続く、または繰り返す患者さんの診断・治療を主に行っています。成人に比べて小児のリウマチ性疾患は治癒することも多いのですが、早期の適切な診断と治療が予後を左右します。また、小児では使用できる薬剤と治療量が成人とは異なるため、より専門的な知識を必要とします。当科では、適切な診断と成長段階に合わせた最適な治療を提供できるように努めています。

これらの疾患は治療が長期に及ぶことが多く、学校生活と並行しながら治療を行っていく必要がありますが、できるだけ学校生活に支障を来さない受診や心のケアにも気を配りながら治療を行いたいと考えています。

小児科 部長　安村 純子　やすむら じゅんこ

WORK STYLE

VOL.2

# 働く現場をご紹介　６階東 病棟

このページでは、職員の紹介も交えながら、ＪＲ広島病院での取り組みを皆さまへご紹介したいと思います。
第２回目は、主に内科を担当する６階東病棟についてのご案内です。

## ６階東病棟の特徴

６階東病棟は、主に循環器、呼吸器、消化器等の患者さんが入院される混合病棟です。急性期の患者さんを受け入れ、日々、あたたかい看護の提供を実践しています。

心筋梗塞や狭心症カテーテル治療や検査など、循環器分野の高度な医療・看護を実践し、安全で快適な入院生活が過ごせるよう、毎日笑顔でサポートさせていただいています。

職員数・・・看護師２９名、看護補助者２名、看護補助事務１名

## 病棟スタッフの取り組み

私たちの病棟では、看護師がペアを組んで協力する仕組みやナースコールの応答時間を短縮する取り組みを行い、協力体制を充実することで、患者さんにより安心して過ごしていただけるように取り組んでいます。

ICLS 認定インストラクター
槇尾　看護師

### チームの質を高め、より良い入院生活の提供を目指します。

突然に起こりうる心停止は、迅速な措置が求められます。6 東病棟に所属する槇尾看護師は、ICLS(心停止蘇生)の資格などを活かし、心停止状態に陥った患者さんへの適切な対処は勿論のこと、自らの実績や知識を基に、人材育成にも熱心に取り組んでいます。中心的役割を成す槇尾さんへ、仕事での取り組みについて伺いました。

**――ICLS 認定インストラクターを目指したきっかけを教えてください。**

ICLS とは「突然の心停止に対する最初の 10 分間の対応と適切なチーム蘇生」です。看護師として患者さんに接する中で、患者さんが急に状態が悪化されて心肺停止状態に陥った時に、自分が蘇生チームの一員として適切に対応できるようになり、患者さんが良い状態で回復していただけるようにしたいと思ったことが認定インストラクターを目指したきっかけです。

**――ICLS 認定インストラクターとしてどのような活動をされていますか？**

当院の看護師や多職種スタッフへの BLS(心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置)をはじめ、ICLS 研修は年２回、インストラクターを育成する指導者養成研修を年２回、院内外から受講生を募集して行っています。当院の認定インストラクターとともに、他病院の医師やインストラクターと協力して行っています。また、看護部の継続教育の一環として ICLS のスキルアップ研修を行い、院内の看護師の知識や技術の向上に努めています。

**――普段心がけていることを教えてください。**

患者さんやご家族が安心できるように看護させていただいています。患者さんの状態が変化したときには早めに主治医に報告し、回復に向けての治療が行えるようチームで協力して対応するように心がけています。

**――今後の目標、患者さんへのメッセージをお願いします。**

今後も病棟や院内看護師や多職種スタッフに ICLS 研修への参加を促し、院内でのチーム蘇生をスタッフが適切に行えるようにしたいと思います。患者さんは安心して入院生活を送っていただき、回復をめざしていただけるように努めていきたいと思います。

# 新任医師の紹介

整形外科 部長
## 田中 信弘
たなか のぶひろ

前職はＪＡ広島総合病院の整形外科診療部長として脊椎・脊髄疾患を専門として診察、治療を行ってきました。安全かつ術後の痛みが少なく、早期社会復帰が可能となる低侵襲手術を目指しています。本当に患者さんのためになる、地域の方々に信頼される治療を目指します。

整形外科 部長
## 小林 孝明
こばやし たかあき

膝関節と足の外科を専門としています。膝関節では靱帯損傷や半月板損傷、変形性膝関節症などの治療を行っており、足の外科では足関節外側靱帯損傷や腓骨筋腱脱臼、外反母趾などの治療を行っています。手術だけではなく保存的治療（手術をしない治療）も行っています。お気軽に相談してください。

リウマチ・膠原病内科 医長
## 茂久田 翔
もくだ しょう

関節に症状の出やすい疾患群であるリウマチ・膠原病の診療に内科医として携わってまいりました。広島市の他の病院とも連携を取りながら、丁寧な診療を心がけていきたいと思います。よろしくお願いします。

呼吸器内科 医師
## 伊藤 洋行
いとう ひろゆき

2020年4月より着任しました。広島市東部の地域医療に貢献できるように努力します。よろしくお願い致します。

消化器内科 医師
## 田妻 卓
たづま たく

患者さんの身体だけでなく、心にもよりそって診療にあたります。よろしくお願い致します。

泌尿器科 医師
## 岡崎 真衣
おかざき まい

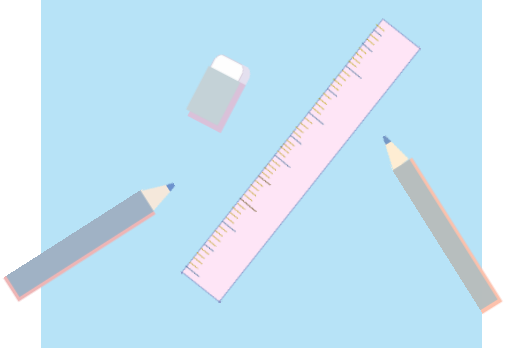
患者さんの話しを聞き、多職種も含め相談しながら治療を進めていきたいと思います。よろしくお願い致します。

産婦人科 医師
## 眞野 隆文
まの たかふみ

山口大学卒業です。更年期障害あるいは女性アスリートの問題など、何かお困りのことがありましたらご相談ください。よろしくお願い致します。

# 院内改善プロジェクトの取り組み

当院では職員による業務改善の取り組み「院内改善プロジェクト」を実施しています。昨年度の成果報告会で発表された取り組みの一部をご紹介します。今後も当院は患者さんにより良い医療を提供できるよう取り組みを進めてまいります。



**① 医療機器の中央管理化に伴う評価（臨床工学室）**

輸液ポンプ・シリンジポンプ、人工呼吸器の中央管理を行い、日常点検などメンテナンスの仕組みの見直し（直営化）を行うとともに、院内全体の稼働状況を見える化し、稼働率や事象発生状況を検証しました。

**② 造影剤投与後アナフィラキシー発生時の対応強化（放射線科）**

ＣＴ・ＭＲＩにおける造影剤によるアナフィラキシー発生時の対応マニュアル等の整備に向けて、現状調査、マニュアル改訂、実施後の評価を行った結果、所要時間、チェックシート達成率、ＣＣＦ（胸骨圧迫時間割合）が改善しました。

**③ 患者満足度調査の内容への対応（拡大ワーキング）**

患者満足度向上に向けて、診療面「医師看護師への相談のしやすさ」、サービス体制面「外来待ち時間への対応」、接遇面「看護師の言葉遣いや態度」「検査・放射線科技師への言葉遣いや態度」で取り組み、満足度が向上しました。

**④ 輸血後感染症検査実施率の向上（臨床検査科）**

ウイルスが体内で増加する輸血３か月後を目途に、輸血後感染症検査未実施者リストを医師および診療科に配布、患者さん宅にも検査を受けるよう郵便にて通知することで、2019年度の実施率が向上しました。


〒732-0057 広島市東区二葉の里３丁目 1-36 ☎(代表) 082-262-1171 FAX 082-262-1499 JR Hiroshima Hospital